

台湾情報誌

交流

2020年1月 vol.946

公益財団法人 日本台湾交流協会

Japan-Taiwan Exchange Association

速報 総統選挙:蔡英文総統が圧勝で再選!



交流

2020年1月
vol. 946

目次

CONTENTS

速報 総統選挙:蔡英文総統が圧勝で再選! (石原忠浩)	1
2019年9月 台湾和菓子講座 (伊藤 郁)	5
花蓮・台東に見る台湾観光の課題 (松田博和)	10
事業紹介 令和元年度日台産業協力架け橋プロジェクト事業 (金子翔平)	18
日本台湾交流協会事業月間報告	22

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人日本台湾交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

●● 日本台湾交流協会について ●●

公益財団法人日本台湾交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も大宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

速報 総統選挙：蔡英文総統が圧勝で再選！ 立法委員選挙も民進党が単独過半数獲得で完全執政へ！（2020年1月）

石原忠浩（台湾・政治大学日本研究プログラム准教授、国際関係センター 助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

【摘要】

1月11日に投開票された総統選挙は、現職の蔡英文総統と頼清徳前行政院長の「英徳配」（蔡頼ペア）が、歴代最高得票数となる817万票あまりを獲得し、韓国瑜高雄市長、宋楚瑜親民党主席の挑戦を退け、再選に成功した。

立法委員選挙でも民進党は、単独過半数議席となる61議席を獲得し勝利した。柯文哲台北市長が率いる台湾民衆党は、10議席を獲得し、議会第三党の地位を獲得した。

新期立法院は2月に開会し、蔡総統は5月20日に第二期目の総統に就任する。

1. 総統選挙の結果と各陣営の反応

2020年1月11日に投開票された、第15回総統副総統選挙は現職の蔡英文総統と頼清徳前行政院長ペアの「英徳配」が、817万231票（得票率57.13%）を獲得し、中国国民党の韓国瑜・張善政ペア（得票数552万2119票、得票率38.61%）、親民党の宋楚瑜・余湘ペア（得票数60万8590票、得票率4.26%）に圧勝した。縣市別の得票数に目を移すと、16縣市で圧勝する結果となった。

本選挙で蔡総統が獲得した817万票は、馬英九元総統が2008年の選挙で獲得した765万票を上回り、史上最高得票数となった。投票率は、白熱した選挙戦を反映したこともあり、前回は8%以上も上回る74.90%であった。

再選を果たした蔡総統は、記者会見で、今選挙の結果の重要な意義は、台湾の主権、民主が脅威

にさらされた時に、台湾住民はもっと大きな声で台湾の堅持を叫んだことである。北京当局は、民主の台湾政府が、他者の恫喝や脅しに屈服しない事実を理解するよう望むと指摘し、兩岸の相互尊重と良質な連動関係こそが、兩岸住民の利益と期待に合致するものとした。

続けて、自身が兩岸関係の平和と安定に対して承諾した事項に変化はないが、平和の維持には兩岸双方に責任があり、自分は台湾海峡の平和と安定に尽力していくとし、中国政府に対し、「和平、対等、民主、対話」の八文字こそが兩岸関係が良好な連動関係を再起動させ、長期にわたる安定と発展の鍵となり、兩岸人民の間に広がっている距離を縮め、相互互惠利益が得られる唯一のアプローチだと呼びかけた。

台湾住民に向けては、今回の結果は、過去四年間の施政において我々が正確な方向を歩んできた

表1 第15回総統副総統選挙の得票率、投票数

	蔡英文・頼清徳ペア	韓国瑜・張善政ペア	宋楚瑜・余湘ペア
得票率	57.13%	38.61%	4.26%
得票数	8,170,231	5,522,119	608,590

資料元：中央選挙委員会「総統副総統選挙 候選人得票数」（2020年1月11日）

https://www.cec.gov.tw/pc/zh_TW/P1/s00000000000000000000.html



桃園楊梅での民進党の集会

ことを示すものであったが、選挙で勝利したことで反省を忘れることはせず、過去に不足や間に合わなかったところは、今以上にしっかりやっていくことを保証すると強調した。最後にともに選挙を戦った、韓候補、宋候補に対して一緒に民主選挙の旅を完成させたことに感謝の念を述べるとともに、政党の立場は異なろうとも将来的な協力の機会を信じると述べた。

2018年11月の統一地方選挙で国民党候補として、22年ぶりに高雄市長選挙に勝利した韓市長は、就任から半年も満たぬ時点で「韓流」ブームの勢いに乗り、党内予備選を勝ち抜き、現職高雄市長の身分として総統選挙に挑戦したが、蔡総統に260万票もの大差をつけられ惨敗した。今選挙の敗戦にき、韓市長は「自分の努力が足りず、皆の期待に応えることができなかった」と敗北を認め、蔡総統に勝利を祝福する電話をかけ、今後四年間は台湾人のために幸福で安心した日々を過ごせるよう努力することを望むことを強調した。

2000年の総統選挙以降、副総統候補を含むと5度目の総統選挙の出馬となった宋楚瑜氏は、「最後の戦い」として本選挙に挑んだものの、前回獲得した得票率を大きく下回る結果となった。宋主席は、支持者に対して、今選挙結果の結論を国民党が下したのものとして決定を受け入れ、蔡総統に対しては、自分が総統候補による討論会で主張した



台北での国民党の集会に集った韓国瑜氏ファンの人々

ことを忘れずに政策施行の際には、参考にしてもらいたいと述べたが、六度目の挑戦を含む今後の動向については、明言を避けた。

2. 立法委員選挙の結果

全113議席を競う立法委員選挙は、小選挙区73、比例代表区34、原住民選挙区6（山地、平地各3）から構成されている。本選挙には、過去最多の18政党が出馬した。

与党民進党は、小選挙区では雲林県以南（屏東県1区は緑系無所属）で全勝するなど着実に議席を積み重ね、46選挙区で勝利したが、比例代表は緑系の小政党が乱立し、票が分散したこともあり、前回から-5となる13議席にとどまり、全体では前回の選挙よりも微減したが、どれでも単独過半数を超える61議席を獲得した。

国民党は、韓流ブームが隆盛を極めた時期には支持率でも民進党を上回り、一時期は過半数獲得と鼻息が荒い時期もあったが、韓流の退潮、比例代表区名簿に親中のとみなされる人物が複数名簿入りしたことにより、党内外から厳しい指弾を受けた挙句に、名簿の順位も再調整を余儀なくされるなど混乱をきたし、小選挙区では地盤とされた北部地域で苦戦するなど選挙区では22議席にとどまった。比例区では、民進党と同等の得票率を獲得し、13議席を獲得し、合計では過半数の目標には程遠かったが前回比で微増の35議席となった。なお、比例名簿15位の呉敦義主席は落選し



桃園楊梅で声援を送る民進党支持者

た。

「非緑非藍」（非民進党非国民党）を標榜し、第三勢力の結集を掲げ、柯文哲市長の下に初の国政選挙に挑んだ台湾民衆党は小選挙区では、多くの候補者の知名度不足もあり、全滅に終わったが、比例代表選挙では着実に票を重ね 150 万票あまり、得票率でも 11%あまりを獲得し、一気に五議席を獲得し、名実ともに第三政党の地位を獲得した。

前回選挙で初めて出馬し、5 議席を獲得した時代力量は、民進党との距離感、路線対立に基づく党内抗争があり、前回選挙区で当選した議員が離党したこともあり、小選挙区で全滅したが、比例代表区では 8%近い票を獲得し、どうにか 3 議席を確保した。

親民党は、前回の総統選挙で宋氏が総統選挙で 10%以上の得票率を獲得するなど、健闘したこともあり、比例区でも 3 議席を獲得した。今選挙では郭台銘氏の支援を受け、党勢拡大を図ったが、「非藍緑」を掲げた民衆党と支持層が重なったこともあり、得票率も 5%にとどかず議席なしに終わった。

本格的な国政選挙へ初めての挑戦となった独立左派を標榜する台湾基進黨は、小選挙区でも候補を立て、民進党が禅譲し、緑陣営全体の支援を受けた陳柏惟氏が台中 2 区で現職の国民党委員を退け、待望の初の議席を獲得した。また比例代表選挙でも南部を中心に票を重ね、議席獲得には至らなかったが、得票率 3%を超えたことで政党補助金を獲得した。

表 2 第 10 回立法委員選挙における各政党の議席数

	民進党	国民党	民衆党	時代力量	基進黨	無所属
総計(前回比)	61 (-7)	38 (+3)	5 (+5)	3 (-2)	1 (+1)	5 (+4)
小選挙区	46	22	0	0	1	4
比例代表	13	13	5	3	0	0
原住民区	2	3	0	0	0	1

資料元：中央選挙委員会の資料を元に筆者が修正

表 3 立法委員比例代表選挙区の政党別得票率、議席数

政党	得票数	得票率 (%)	獲得議席数
民主進歩党	4,811,241	33.9774	13
中国国民党	4,723,504	33.3578	13
台湾民衆党	1,588,806	11.2203	5
時代力量	1,098,100	7.7549	3
親民党	518,921	3.6647	0
台湾基進黨	447,286	3.1588	0

資料元：中央選挙委員会「不分區及僑居國外國民立法委員選舉 政黨得票數」(2020 年 1 月 11 日)

http://www.cec.gov.tw/zh_TW/T4/s0000000000000000.html

なお無所属議員が5選挙区で当選しているが、うちわけは緑系が3議席、藍系が2議席となっている。台北市、桃園市、屏東県が民進党系、花蓮県、山地原住民が国民党系となっている。

3. 選挙を終えての雑感

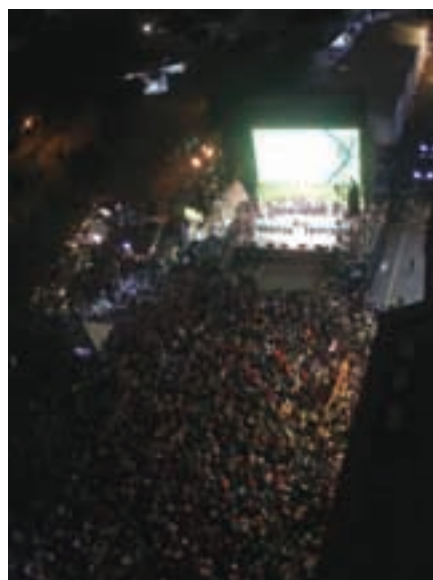
今回の総統選挙で、筆者は1996年の初の民選総統選挙から7回目の総統選挙を体感したことになる。今選挙も無事に終わったことで、台湾の民主主義の基盤が更に堅いものとなったことを感じる。

ここでは、選挙後とりあえずの雑感を述べたい。民進党の勝因については、日本のメディアをはじめ、多数の見解が述べられている。今選挙の争点としても挙げられた「中国との距離感」に代表される「中国要素」は、最大公約数であったと概ね異論はない。「韓国瑜を総統にさせたら大変だ」という危機感が民進党に対する嫌悪感を上回った」という論点は、筆者個人としては最も痛感した要素ではあるが、ここでは「団結の民進党 VS 分裂した国民党」という構図に言及したい。

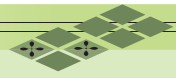
一昨年の統一地方選挙で一敗地に塗れた民進党が、昨年3月以降は「現職総統 VS 前行政院長」という前代未聞の予備選に直面し、一時的には党内の亀裂もさらに深まったが、年初の習近平発言や夏以降の香港情勢の先鋭化という追い風に乗れ、8月以降は支持率で逆転し、当初沈黙を守り副総統候補に就くことを固辞していた頼氏を採りこむことで「党内整合」が完成したことで、「蔡総統再選」と「議会単独過半数確保」という明確な目標を確立し、表面上は挙党一致態勢で選挙に臨むことができたというのが筆者の偽りのない思いである。

その一方、統一地方選挙で大勝したことで政権奪還の可能性と雰囲気が高まった国民党は、複数の有力者が総統候補に名乗りを挙げ、早くも予備選の段階から混乱を生じ、公認候補選出後は、党中央が郭台銘、王金平らとの関係修復に失敗しただけでなく、韓候補と党中央との関係すら脆弱なまま、「不団結の国民党」のまま選挙戦に突入していく中で、次々に明るみに出た韓候補に関する事案（スキャンダルというほどではなかったが）に対し、同人の個人的特質に厳しい目が向けられるようになり、最後は「香港情勢」がとどめを刺したというのが筆者の実感である。

開票から1週間の時点で、韓候補は高雄市長の職務に復帰しているが、党内では次期主席選挙選出にとどまらず、次世代の議員や党員からは、あるべき対中国路線の検討、党改革や「革命」までもが議論の遡上にのぼっており、引き続き注視が必要な状況になっている。春節以降に進展する韓市長に対する罷免案の状況とともに次号以降報告する予定である。

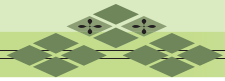


民進党の勝利宣言集會に集まった人々



2019年9月 台湾和菓子講座

和菓子職人 伊藤 郁



日本台湾交流協会では、台湾の方々の日本理解を深めるため、日本文化事業として様々な催しを実施しています。今回は和菓子作りの体験を含め、和菓子の歴史や菓銘の意味等から日本文化の深さに触れることのできた和菓子講座の様子をご紹介します。

日本台湾交流協会様からのご依頼があり、2019年9月6日～9日の日程で台北、高雄の2箇所の会場で日本文化の一端としての和菓子をご紹介します。貴重な機会を頂きました。

講師は伊藤郁、老泉翔太氏の2名。

台湾は親日家の方が多いと伺っていましたので、皆様に和菓子をお伝えすることを楽しみにしていました。

2名とも台湾初訪問でした。

講師経歴

・老泉翔太(おいずみしょうた 28歳)

愛知県瀬戸市にある

「和菓子処 三好屋老泉」の三代目

和菓子製造経験年数は菓子専門学校も含め10年ですが、現在日本に数多くの和菓子職人がいる中でも138名しかいない「選和菓子職」の資格を持つ優秀な若手職人さん。

瀬戸市はもちろんの事、各地で和菓子教室を主宰されています。

今回初めての海外での活動でした。

・伊藤郁(いとうかおる 66歳)

株式会社虎屋に45年間勤務し東京・京都での30年以上の製造経験の他、広報課では広く和菓子の紹介をしていました。

2016年63歳で退職後、現在は日本各地で和菓子講師を務め、広く和菓子の魅力をお伝えしています。

虎屋在職中、2002年には韓国広報文化院様からの依頼でソウル、釜山、濟州島での和菓子講座を行ないました。

退職後2018年6月には北京市内5か所、19年2月には北京日本大使館様ホールでの講座も行いました。

また2019年11月には上海日本領事館様ホールでも和菓子講座を行っています。

9月7日 台北会場

「議題製作所 (Topic Factory)」様での開催。

午前中は三立新聞台様からの取材。

インタビューでは和菓子作りに対する思いなどをお話しし、いくつかの菓子製造風景の撮影もありました。

2日間に渡り当日のイベント風景がTV放送され、またYou Tubeでは再生回数6千回以上と多くの台湾の方々に和菓子をご紹介します機会に恵まれました。



(老泉氏のハサミ菊製造風景)

午後は約 80 名の参加者の皆様に、虎屋 16 代の言葉にある、「和菓子は五感の芸術」を題材に、和菓子は味覚・視覚・嗅覚・触覚・聴覚の五感が大切であることをお伝えし、四季それぞれの意匠、色彩、木型など様々な道具の話などを織り交ぜ、和菓子の楽しみ方をお話させて頂きました。

試食菓子も 100 個ほど用意しました。



(台北会場の皆様と)

◆ 五感

・味覚

美味しさはもちろんのこと、原材料のもつ様々な風味、甘さなど多くの要素があげられます。

・視覚

綺麗な仕上がり、色の濃淡などの使い方など目からの情報で楽しめます。

・嗅覚

和菓子はお茶と共に歩んでおり、お茶の香りを邪魔しないように作られ、餡、柚子、ゴマ、肉桂、黒砂糖などの素材の持つほのかな風味を楽しめます。

・触覚

餅や求肥などの手に触れた時の感覚、羊羹を噛んだ時の弾力などを楽しむ。

・聴覚

なぜ菓みに耳が必要なのか？

和菓子はそれぞれに名前が付いています。

菓銘（かめい）といいます。

掌に乗る小さな菓子の中に込められた、古典文学、名所旧跡、四季の花などから名付けられた菓子の名前を聞くことで、そのイメージが頭の中に広がり、何を意味しているのかを理解できるのです。

菓銘は和菓子の重要な部分を占めています。

菓銘の話は台湾の皆様には少し分かりにくかったので、「小籠包」を菓銘に例えてお話しましたところご理解頂きました。参加者の約半数の方が日本語を理解でき、通訳の方の適切な表現もあり皆様に和菓子をご紹介できたことと思います。

デモンストレーションでは、四季それぞれの菓子の作り方を道具の紹介も織り交ぜ皆様にご覧頂きました。



和菓子作りは手先の細かな作業ですので離れている皆様にもご覧頂けるようプロジェクターをご用意頂きました。着色された丸い練切生地が、繊細な指の動きで菓子に変わる毎、ホール全体に歓声が響きました。

老泉氏からはハサミの使い方など仕上げるのが非常に難しい技術の「ハサミ菊」の実演があり、出来上がりの美しさに多くの皆様が写真撮影をされていました。



(ハサミ菊)

お話しも大切ですが体験もあればより理解しやすいのではと思い、準備などの都合もあり両会場5名の参加者のみでしたが製菓道具の一つ「三角ベラ」を使い、菊のお菓子作りを体験して頂きました。簡単に見えますが、手首の返し方、線の入

れ方など皆様ご苦労されてきました。

これまで台湾、韓国、中国と多くのアジア各地の方々に和菓子を紹介できる機会があり、材料は毎回通常日本で販売している餡を持参しています。

今回の講座では練切生地と餡合計13kgを持参しました。



(台北での体験風景)

◆ 9月8日 高雄に移動 高雄会場

朝、台北から新幹線に乗り高雄に移動。車窓からは日本？台湾？どちらとも区別がつかない田園風景が広がり、寺院の屋根瓦の色で台湾にいると判別できました。

「高雄商務会議センター」様での開催。会場到着後早々に試食菓子作りを行い、午後2時からのお客様のお出迎え。高雄会場でも約80名様参加があり、台北と同じ内容の講座を行いました。

皆様早い時間に到着と、和菓子に対する熱意を感じました。

台南で練切を販売している女性も参加され、「こちらでは思うような材料の入手が困難」・「色々知りたいが、中々教を乞う機会も少ない」・「今日を楽しみにしていました」と嬉しいお言葉も頂き、同じ菓子を作る者として貴重な意見交換が出来ました。



(高雄の会場でも試食して頂きました)

講座終了後、練習されてくださいと、少しですが練切生地をお分けしたところ、飛びっきりの笑顔のお礼がありました。

台北・高雄の両会場とも幅広い年齢層の方々がお越しくださいました。

何れの会場でも皆様菓子を写真に取め、どの菓子を試食するかを真剣に悩まれていました。



◆ 質疑応答

Q・各会場で試食された皆様に、このまま味を変えることなく現地の方に受け入れられるか？

「甘さ」、「柔らかさ」などについて質問しました。

A・いずれの地域でも約3割の方から、「甘過ぎる」・「砂糖を20～30%くらい控えて欲しい」

などの感想を頂きました。

参加者の約4割の方が初めて和菓子をお召し上がりになったと言われました。

Q・日本に行って美味しい和菓子を食べましたが、台湾の友人にお土産で持ち帰るにはどうすればいいですか？

との質問がありました。

A・夜市のかき氷を例えにして、上生菓子と言われている和菓子の賞味期間は1日～2日であること。

このままの状態を数日保つことは出来ず、美味しいものは現地で食べて、旅行の思い出と共に写真と頭の中の記憶として残し、また、旅行に出たい、美味しい物を食べたいと思うことが旅をする楽しみではないでしょうか。とお答えしました。

皆様、試食菓子はほぼ完食されており、練切のねっとりした口触り、甘さに慣れていないのでは？と感じました。

甘いとの感想がある反面、訪日経験があり和菓子をご存知の方からは「美味しい」・「台湾で和菓子が食べられるとは」など嬉しいお言葉も頂きました。

各国それぞれにその国の文化があり、食文化も気候風土、穀物、水、伝統の技術と工夫された道具など長い歴史の中で様々に発展してきました。

現地の気温、湿度なども考慮し出来るだけ現地調達できる材料で和菓子作りに使えるかなど調べる必要があると感じました。初の台湾訪問でしたが大切なのは「笑顔」。言葉が通じなくとも、こちらが笑顔なら接してくれる方々も笑顔になります。

国レベルでの友好も重要ですし、また個人レベ

ルでも、その国の方と親しくなる。互いの国を知ること、理解することが友好の第一歩ではと感じました。

◆◆◆ 和菓子のルーツ

- ・米や粟、稗などの穀物から作られた餅や団子や木の実、果物など。
- ・飛鳥～平安時代に遣唐使によって中国より伝えられた唐菓子。
(小麦粉を水で練って油で揚げたもの)
- ・鎌倉～室町時代に中国から禅宗の僧侶が伝えた「点心」が変化したもの(饅頭や蒸羊羹など)。
- ・室町～安土桃山時代にかけてポルトガルやスペインから入ってきた南蛮菓子(カステラ、金平糖など)。

これらが、江戸時代になり茶の湯文化の発展した京都を中心に進化して、今の和菓子の基が出来上がったと言われています。

持論ですが、「日本人のDNAには餡の遺伝子が組み込まれている」と感じています。

調べても餡を持つ遺伝子はありませんが、ある年齢になると自然に抹茶の渋さと和菓子の甘味を欲してくる。

日本人のもつ独特の感覚なのではと思います。

日本では、お菓子⇒お茶の順ですが、台湾茶は何煎でも飲めるので、最初にお茶⇒菓子の順になることなど新たな発見をしました。

- ・お菓子を食べる時は心が落ち着いている時。
- ・自分にご褒美を与える時間。
- ・団欒のひと時、コミュニケーションでの一つのツールであると思います。

食べ物は口にしてしまえば形には残りませんが記憶に残るもの。

これからも多くの皆様に愛され、記憶に残る菓子作りを目指すとともに、和菓子の魅力を伝えてまいります。



(伊藤郁・老泉翔太)

台北・高雄で日本台湾交流協会の皆様からお話を伺う中で、海外で暮らすご苦労や、今回のような日本を知って頂く講座を設けることなど様々なお話をお聞きすることが出来ました。有難いことに今回の和菓子講座では台湾の皆様から多くの参加申し込みがあったと伺いました。

最後になりましたが、台湾和菓子講座では、

日本台湾交流協会台北事務所広報文化部、高雄事務所文化室をはじめ皆様方のお力添えを頂き、無事台湾の方々に和菓子の魅力をお伝えすることが出来ました。

貴重な経験をさせて頂きましたこと心より感謝申し上げます。

皆様、ありがとうございました。

花蓮・台東に見る台湾観光の課題

JNTO 日本政府観光局
海外プロモーション部 東アジアグループ
シニアアシスタントマネージャー 松田博和

＝日本人インバウンド拡大の視点から＝

私は2017年6月末から19年6月末に帰国するまでの2年間、JNTO 日本政府観光局から日本台湾交流協会台北事務所に出向し、日台双方の観光交流を促進する仕事に取り組んだ。経済部主任（観光交流組）として勤務する中、業務やプライベートで島内各地を訪れ、台湾の魅力を存分に体感した。知れば知るほど台湾が好きになった。

九州をひとまわり小さくした台湾には、険しい山が幾重にも連なる地形や、日本統治時代の建物など旧跡が多いといった特徴があり、豊富な観光資源に恵まれている。私はその中でも、自然美あふれる花蓮と台東、つまり「花東」と呼ばれる東部地域を推す一人だ。優れた観光地でありながら、交通が不便なことや、バラエティーに欠ける宿泊施設などがネックとなり、日本人を含むインバウンドは思ったように伸びていない。花東に観光面での課題が凝縮されていると言ってもよいだろう。

本稿では花東地域に焦点を当てながら、日台観光交流の課題について検討する。

◇縮まらない日台「不均衡」

2019年の日本は台風など自然災害が多い1年だったが、年間の訪日台湾人の数は前年同期比2.8%増の489万600人と、増勢が続いた。一方の訪台日本人は2019年12月9日に200万人を突破（台湾交通部観光局統計）したが、訪日台湾人数の半分にも満たない数である。18年（1～12月）はというと、訪日台湾人は前年比4.2%増の475万7258人。これに対して、訪台日本人は3.7%増の196万9144人とどまった。両年とも、訪日台湾人は訪台日本人の2.4～2.5倍と、差は一向に縮まっていない。訪台日本人数も増加しているが、訪日台湾人数増加の勢いに追いついていないのである。

国際的な観光客争奪戦の結果と言えればそれまでだが、日本の人口が約1億2000万人に対し、台湾の人口は約2300万人に過ぎず、明らかな不均衡

が続いている。

この日台格差が広がったのは実は、ここ数年の出来事だ。リーマン・ショックに揺れた10年前の09年の実績を見ると、訪日台湾人は102万4292人、対する訪台日本人は100万0661人と、ほぼ拮抗していた。

台湾人訪日客は13年ごろを境に急増した。格安航空会社（LCC）の台頭に加え、日本各地と台湾をダイレクトに結ぶ地方路線の航空便が新規就航したり、増えたりしたことが背景だ。ただ、多くの路線では台湾人の乗客が多数を占め、日本人を思った通りに集客できていない。

◇訪日客急増に商習慣の違いも

その要因は多岐にわたる。台湾の航空業界では、伝統的に「キーエージェント制」が取られている。すなわち、繁忙期は友好的な旅行会社に優

先的に座席を提供する代わりに、閑散期の座席も強制的に割り当てるという制度だ。繁忙期は座席を着実に確保できるメリットがある半面、閑散期は座席を売り切らないと、損失を出すリスクを抱えることになる。このため、団体ツアー商品が発売直前になって、大幅に割引されて売り出されることがあり、台湾人の訪日客急増につながった側面がある。

一方で、日本にはキーエージェント制を採用していない上、個人旅行で台湾を訪問する人が多いため、爆発的な増加にはつながっていない。台湾の業界関係者からは、「日本の旅行会社には、何としても座席を埋めようという姿勢が見られない」との声も聞かれるが、商習慣の違いによるところが大きい。

こうした中、近年では航空会社が機材を小型化して需給バランスを調整していることや、FIT（個人旅行、Foreign Individual Tour）向けにインターネットによる航空券販売を増やしていることもあり、航空会社と旅行会社の関係性は大きく変容している。これまでのように、路線開設後はキーエージェントに座席販売を委託し、旅行会社の努力によって路線を維持するという構図が崩れつつあるのだ。このため、台湾と日本の地方都市を結ぶ路線の維持には、訪台日本人の増加がますます不可欠になっている。

ここ数年、日本の地方と台湾を結ぶ便の新規就航や増便が相次いだ。これに伴い、自治体のトップセールスをはじめとした関係者の訪台が増えている。台湾の業界関係者とアポイントメントを取り付ける際、先方からは必ずと言っていいほど「日本に来てというだけでなく、日本からも台湾に来てほしい」という苦言が寄せられる。津々浦々の地方自治体からの訪問希望で、アポが途切れない状況に、台湾側からは「観光セールスは歓迎するが、相互交流を拡大させる具体案も提案してほしい」との本音が漏れる。

◇日本人観光客は台北に集中

日本人の台湾に対する印象は非常に良好であり、台湾に行ったことがある人の中で、「もう二度と行きたくない」と言う人は皆無に等しい。だからといって、数ある海外の観光地の中で、次もまた台湾に行きたいかという、それはまた別問題である。

台湾の観光アイテムですぐに頭に思い浮かべるものと言えば、小籠包（ショーロンポー）やタピオカミルクティなどのグルメ、超高層ビル「台北101」、夜市、故宫博物院、台北郊外の猫空茶畑といったスポットだろう。

航空機の離発着が台北に集中していることもあり、訪台日本人の8割が台北の訪問にとどまっているのが現状。台湾側が求める日本人観光客の拡大には、リピーターの獲得が不可欠となる。ただ、「台北一本足打法」では限界がある。中南部や東部など台北以外の観光地に日本人を導くことが必要だ。

◇東西で異なる自然風土

台湾の地図を見ると、島のやや右側を南北に中央山脈が貫いていることが分かる。中央山脈は全長340キロ、最高峰は3825メートルと、富士山より高い。他に雪山山脈、阿里山山脈、玉山山脈とも繋がっており、台湾の最高峰は玉山の3952メートル。玉山は日本時代に新高山（にいたかやま）と呼ばれていた。これらの山脈を境に、台湾の東側と西側では相異なる自然風土が生まれた。

東西を結ぶ東西横貫公路（省道台8線）はあるが、道が非常に険しいため、路線バスが1日1便走るのみである。東西を横断する鉄道はなく、台中や台南といった西側から花蓮や台東に鉄道で行くには、南か北回りで移動するしかない。台湾の東西はある意味、山脈によって分断されていると言ってもいい。

東部の海岸は、太平洋の荒波に削られた断崖絶壁が美しい景色を織りなしている。交通が不便な

ゆえに残った手つかずの自然、長く続く海岸線、山あり海ありの景色は、何度見ても飽きない。

花蓮の必見スポットと言えば、太魯閣（タロコ）渓谷。東西横貫公路の一部として建設された道路を利用して見学できる。日本にはない大理石の断崖絶壁が続く絶景道路となっており、訪れる者を魅了する。

台東は美人の湯として知られる知本温泉、省道11号線から沖合いに見える3つの大岩礁「三仙台」など、観光資源は豊富だ。離島の緑島に足を伸ばすのもよい。日本時代に火烧島と呼ばれ、日本人が撤退した後続いた国民党独裁時代には、政治犯が収容されていた。収容所は人権文化園区

として整備され、一般に開放されている。海底から湧き出る温泉として有名な朝日温泉も人気で、潮風に当たりながら温泉につかれば、心と体が癒やされること間違いなし。緑島はスキューバダイビングのスポットとしても知られている。

台湾には、先住民族が57万人余おり、台湾政府が承認する16種族の多くが、花東に集中している。アミ族をはじめ、ブヌン族やルカイ族、パイワン族、プユマ族などが暮らし、種族によっては毎年7～8月ごろに「豊年祭」と呼ばれる祭りを行う。緑島と同じ台東県に属する離島の蘭嶼にはタオ（ヤミ）族がいて、こうした先住民族との交流も、日本では得られない貴重な体験となるだろう。



太魯閣マラソンで渓谷を走る(1)



太魯閣マラソンで渓谷を走る(2)



東西横貫行公路のゲートから太魯閣の旅が始まる



太魯閣渓谷の断崖が続く



三仙台へ続く橋



橋の上から島を見る

◇課題多い交通インフラ

中央山脈から西半分は、日本時代に整備された在来線の台湾鉄道（台鉄）のほか、台湾高速鉄道（高铁）と2本の高速道路が完備している。特に2007年に日本の新幹線技術を導入して開通した高铁は、台北—高雄間の移動の利便性を劇的に向上させた。

しかし、花蓮や台東のある東側に台北から行く場合には高速鉄道（高铁）が未開通である為、台湾鉄道東部幹線かバス、あるいは航空機に乗ることになる。宜蘭県の蘇澳から花蓮を結ぶ「蘇花公路」は、断崖絶壁を縫うように走るため、長い間バス路線が未開通の状態であった。そのため、台湾鉄道東部幹線の特急券の入手が非常に困難な状

態であった。そのような「陸の孤島」状態を解消するため、9年間かけて高速道路建設が進められており、20年1月6日に全線開通。台北南港から花蓮まで約3時間30分で結ぶバスも同時に開通した。運賃は定価が320台湾ドルである。

花東に行く場合、最も手頃でポピュラーなのが鉄道だ。特急の自強号で、台北—花蓮は約2時間～約3時間50分かかるが、運賃は440台湾ドル（約1600円）と安い。急行の莒光号は最速で2時間20分、運賃は340台湾ドルとさらに割安だ。自強号も莒光号も需要の割に本数が少ないことから、いずれも週末を中心にチケットがなかなか手に入らないのが難点だ。特に連休時のチケットは、発売と同時に売れ切れる「秒殺」状態となる。



立栄航空のATR プロペラ機



特別塗装の普悠馬（プユマ）号

台北-花蓮の飛行機は現在、立栄航空（長栄航空＝エバーの子会社）1社しか運航していない。1日2便で、所要時間は50分と短い、運賃は鉄道の2倍以上する。

◇まずは鉄道の利便性向上を

私は花東に何度も足を運ぶ中で、交通インフラを含む諸課題について考察を重ねた。そこで私なりに考えた改善策などを下記にまとめた。

まずは鉄道輸送について。普悠馬（プユマ）号、太魯閣（タロコ）号として運行される自強号は、増発や車両の増結が望まれる。現行では8両編成となっているが、ホームは12両編成に対応しており、増発が難しければ、増結による輸送量増強を図るべきだ。

加えて、いずれも指定席しかないため、自由席を設けたほうがいい。多様な乗客のニーズに対応するため、高铁と同様にファーストクラス車両（グリーン車）を設けることも検討すべきだ。

次に運賃・料金体系。現在の体系は特に外国人には分かりにくい、列車名と運賃・料金を整理することが求められる。現状はプユマ号やタロコ号を含む4種類の自強号特急列車（運賃は一律440台湾ドル）の所要時間が2～3.5時間とばらつきがあり、先ほども触れたように、急行の莒光号（340台湾ドル）の方が速い場合もある。車内設備にも種類ごとに大きな格差が存在する。

3番目に予約、発券サービス。現状では、券売機にしる、窓口にしる、空席状況を列車ごとに調べなければならないため、手間がかかる。予約も2週間前からで、予定が立てにくい。高铁のように空席状況が一覧で表示されるような、外国人にも分かりやすい予約・発券システムが必要だ。

4番目に、台鉄の安全性向上も喫緊の課題だ。みなさんの記憶にも新しいと思うが、18年10月に台東行きのプユマ号が脱線事故を起こし、18人が死亡、300人近くが負傷する大惨事となった。台鉄はただでさえ遅延が多いといった問題を抱えている。これでは外国人観光客が安心して旅を楽しむことはできない。日本の旧国鉄のように大胆な改革が必要だ。

5番目に航空輸送の改善。現状は、台北-台東間の鉄道による移動は、約3.5～7時間だが、飛行機では約1時間。ただし、航空便は1日5便（週末は同6便）のみで、明らかに座席数が不足している。特に早朝や夜便は、便数や座席数を増やすべきだろう。また、台東空港に着くと分かるが、レストランはおろか、コンビニエンスストアもなく、観光客を迎える空港としては改善の余地は大きい。

◇花東はリゾートにも最適

知人から「家族で過ごせる台湾のビーチリゾートを紹介してほしい」というリクエストをもらうこ



普悠馬（プユマ）号、太魯閣（タロコ）号



PP（プッシュプル）自強號



柴油（ディーゼル）自強號



特急自強號4種のNゲージ鉄道模型

とがある。屏東県の墾丁や、離島の澎湖などリゾートらしいところはあるが、本格的なリゾートとしては物足りないため、答えに窮してしまう。美しい海岸線が続く台東こそ、その候補地だと思う。

台東では環境保全の観点から、海岸から500メートル以内にはホテルが建てられない決まりがあり、現行では大規模なリゾートホテルがない。団体ツアー客は内陸の知本温泉などに宿泊するしかないのが現状だ。

リゾートホテルをめぐるのは、開発業者が03年、台東県中部・卑南郷の海岸沿いにリゾートホテルを開発する計画を打ち出した。同県政府のBOTによる開発計画だったが、建設中に環境問題から係争となり、16年に営業を禁じる最高裁判決が出てしまった。施設は完成したのに一度も営業していない状態が続き、環境は破壊されながら経済効果もなく、施設が野晒しという状態になっている。

台東は温泉にも恵まれている。海岸線に近い高

台に豊富な温泉が湧出する金侖は、温泉リゾート開発には最適の土地だ。台鉄の金侖駅から徒歩でのアクセスも可能で、温泉からは山と海、金侖大橋、鉄道が全て視界に入り、雄大な景色を楽しめる。台東の海あり山ありの環境に配慮した海岸リゾートホテルがあれば、より多くの観光客が訪れるはずで、規制緩和が待たれるところだ。

先述したように、花東には先住民族が多い。地元の台湾人との交流を求める観光客は多いものの、交流機会は残念ながら多くない。例えば、アミ族の舞踊ショーが見られる花蓮の「アミ文化村」出演者に観光地を案内してもらうなどのプランを打ち出してみてはいかがだろうか。ショーだけでなく、食事も提供することで、アミ族の食文化にも触れる機会があればなお良い。

◇日本人訪台者拡大へ努力を

JNTO 日本政府観光局は毎年度、地方都市を中



開業できず野晒し状態のリゾートホテル



パイワン族夫妻の結婚式



台東縣太麻里鄉金崙村長 陳志偉 氏（中央）



金崙温泉から金崙大橋越しに太平洋を臨む



金崙温泉入口



金崙駅停車中の莒光号



金崙温泉



金崙大橋と海岸

心に重点地域を設定し、台湾で積極的なプロモーションを展開している。台湾人観光客に地方都市の魅力を知ってもらい、リピーターとして何度も訪日してもらうことが目的だ。地方都市の訪問を促進することは、ゲートウェイとなる大都市に立ち寄るだけでなく、現地で観光やショッピングをするなど、多

様な旅行の選択肢を提供することにもつながる。

花東は現在、日本からの直行便はないため、台北や高雄を経由することになる。花東へのインバウンドを増やすことは、台北や高雄へのリピーター創出にもつながるはずだ。現状では花東の魅力が日本人に十分伝わっているとは言い難く、プ

ロモーションの強化も必要だ。海外旅行の渡航先が様々ある中で選択されるには、魅力あるプロモーションが不可欠である。

日本台湾交流協会が19年11月に発表した最新の対日世論調査によると、59%の台湾人が「最も好きな国は日本」と答え、2位の中国（8%）、3位の米国（4%）を大きく引き離れた。日台関係は、民間交流を中心に非常に良好な状態だと言っても良い。

この良好な関係を維持・強化する上でも、日本

側には訪台客を増やす努力が求められている。台湾人のインバウンド拡大の観点からも、訪台日本人を増やすことは有効である。私は昨年11月、花蓮のタロコで行われたマラソン大会に参加するため、台湾を訪れた。台湾は今、日本と同様にマラソンブームで、各地でマラソン大会が開催されている。自転車で台湾を一周する「環島（ホアンダオ）」も人気だ。1人でも多くの日本人がタピオカやショーロンポーだけでない台湾の魅力を知ってほしいと心から願っている。（了）



台湾全土と花蓮、台東の位置関係



台湾国鉄山里駅



綠島の朝日温泉



太魯閣溪谷の先にある觀雲山莊

事業紹介

令和元年度日台産業協力架け橋プロジェクト事業 (一般財団法人九州産業技術センター) 活動報告

日本台湾交流協会東京本部
貿易経済部副長 金子翔平

日台産業協力架け橋プロジェクト事業は、当協会が経済産業省の補助を受け、平成 25 年度から実施している事業です。日本の中小企業振興を主な事業目的とした団体や地域の産業振興団体等が主導する日台間の産業協力強化プロジェクトを支援する事業として、今年度は4つのプロジェクトを採択しています。(表1)

今回は、その中の1つである一般財団法人九州産業技術センターが実施するプロジェクトについてご紹介したいと思います。

●九州産業技術センター活動報告

～九州台湾連携によるグリーンエネルギー・循環経済プロジェクト形成・促進事業～

・プロジェクトの背景・目的

深刻な公害を克服した経験を有する九州には、廃棄物リサイクルや水処理等の環境技術を有する

企業や日照時間が長いという利点を活かした太陽光発電等の再生可能エネルギー企業が集積しています。一方、台湾では、経済発展に伴う環境問題への対応や循環経済の促進、再生可能エネルギーの導入等が政策として推進されています。

こういった背景の下、九州産業技術センターでは、九州という台湾に近い地理的な優位性と九州企業の有する質の高い技術を踏まえて、台湾における九州と台湾との貿易・投資プロジェクトの形成と促進に繋げるとともに、台湾の政策推進及び問題解決を目的として、「九州台湾連携によるグリーンエネルギー・循環経済プロジェクト形成・促進事業」を実施しています。

九州産業技術センターのプロジェクトは、8月の福岡でのセミナー開催に始まり、9月と11月に台北で開催された展示会への出展、商談会及びセミナーの開催と、内容が大変充実したものと

表1 今年度の採択プロジェクト

	◆日本側実施主体 と ●台湾側のパートナー	実施プロジェクト名
1	◆一般財団法人九州産業技術センター ●台日産業連携推進オフィス(TJPO)	九州台湾連携によるグリーンエネルギー・循環経済プロジェクト形成・促進事業
2	◆一般社団法人全国介護事業者連盟 ●台日産業技術合作促進会 ●台湾長照事業団体強強倶楽部	日台介護産業交流サミット2019
3	◆NPO法人高周波・アナログ半導体ビジネス研究会 ●財団法人工業技術研究院(ITRI)	日台連携による独自アナログ技術をコアとするユニコーン・ベンチャーの創出活動
4	◆一般社団法人熊本県工業連合会 ●台湾電子設備協会(TIIEA)	半導体・輸送・医療・バイオテクノロジー・エネルギー関連産業等製造業と台湾企業のビジネス交流

表2 九州産業技術センターのプロジェクト概要

時期	事業	場所	備考
8月	台湾環境エネルギービジネスセミナー開催	福岡	参加人数54名
9月	台湾国際循環経済展(CIRCULAR ECONOMY TAIWAN)出展	台北	3日間出展
	商談会開催	台北	商談件数20件
11月	日台総合マッチング大会(TJ CONNECT FAIR 2019)出展	台北	3日間出展
	商談会開催	台北	商談件数37件
	九州台湾循環経済・グリーンエネルギービジネスセミナー開催	台北	参加人数28名

なっています。(表2)

今回は直近に行われた11月の事業についてご紹介したいと思います。

・「日台総合マッチング大会」(TJ CONNECT FAIR 2019)への参加

九州産業技術センターは、11月28日～30日の3日間、台北で開催された「日台総合マッチング大会」(TJ CONNECT FAIR 2019)に九州の中小企業5社を伴って参加し、展示会の開催期間中には、台湾企業との一対一の商談会、九州企業の取組を紹介するセミナーを実施しました。

また、九州産業技術センターがこれまで支援してきた九州企業と台湾企業との共同事業化に向けたMOUも会場内で締結され、今後より一層の連携について合意されました。

【日台総合マッチング大会(TJ CONNECT FAIR 2019)出展】

日台総合マッチング大会は、日台産業連携を推進するために台湾の経済部が開設した台日産業連携推進オフィス(TJPO)を運営する財団法人資訊工業策進会(略称:III/トリプルアイ)が主催しており、地方自治体等による観光物産PRエリアやご当地物産販売エリアが設けられ、日本の多くの自治体がPRを行っていました。

九州産業技術センターもセンターの取組や支援企業のPRを行い、現地テレビ局のインタビューを受ける等、注目を集めていました。



展示会の様子



三立新聞網による報道

【商談会開催】

11月28日、29日には九州の中小企業5社(表3)と台湾企業との一対一の商談会を実施し、1コマ40分の商談会で2日間、合計37件の商談が行われました。台湾側商談相手は22社、商談件数37件、うち継続案件13件でした。今後の商談の展開が大いに期待されます。

【九州台湾循環経済・グリーンエネルギービジネスセミナー開催】

11月29日には、九州の企業による自社の技術に関するプレゼンテーションをセミナー形式で開

表3 参加企業紹介

企業名	主な業務・商材
ハウステンボス・技術センター（株）	省エネ・省コスト・環境衛生管理に有効な技術や製品の販売・施工・コンサルティング等
協和機電工業（株）	水処理機械、産業機械、排水処理等のシステムエンジニアリング業務等
（株）ファーストソリューション	簡易汚泥脱水装置「エコポーチ」及び凝集剤等
（株）グリーンナー	廃棄物実務管理、排出物の管理（見える化）サービス等
（株）福岡建設合材	リサイクル製品、灰処理システム等



商談会の様子



セミナーの様子

催しました。

参加者は28名（関係者除く）。アンケートによる満足度は95%で、発表者に対して聴衆からの活発な質問が寄せられ、環境問題への対応や循環経済の促進に関する台湾での関心の高さが伺われました。

【成果：MOU 締結】

これまで九州産業技術センターが支援してきた日台企業連携の案件が展示会会期中に大きな一歩を踏み出しました。

使用済み紙おむつの水溶化処理・再資源化の技術を有するトータルケア・システム株式会社と台湾大手の紙おむつメーカーである康那香企業股份有限公司(KNH社)が台湾における使用済み紙おむつリサイクルの事業化に向けて全面的に協力していくことに合意するMOUを締結しました。

日本と同様に台湾においても高齢化が進む中

で、良質なパルプを含む紙おむつのリサイクルの重要性は高まっており、今後の両社の連携による事業の推進が大きく期待されます。両社のMOU締結については、現地報道及び日本でも西日本新聞で取り上げられました。



トータルケア・システム(株)とKNH社によるMOU締結が当協会及びTJPO立ち会いの下で行われた

●日台産業協力架け橋プロジェクト事業について

日台産業協力架け橋プロジェクト事業は、今年度から助成金交付形式により、日台の機関の共催で開催する商談会、セミナー及び展示会を対象に、経費の一部を助成するとともに、事業実施を加速（自立化・目標への到達を加速・強化等）するため、応募団体が連携を希望する台湾側パートナーとのマッチングサポートや、事業の円滑な実施のため現地情報及び事業実施のノウハウを提供しています。

なお、平成25年度～平成30年度までに公募によって32の交流プロジェクトを採択・支援し、日本企業と台湾企業とのビジネス交流を推進してきました。（表4）

当協会では、来年度も日台産業協力架け橋プロジェクト事業を実施いたします。令和2年1月から、実施団体を公募する予定ですので、台湾の企業・団体とのビジネス交流計画をお持ちで本事業にご関心のある方は、当協会のホームページ(<https://www.koryu.or.jp/>)にて詳細事項をご確認ください。

表4 これまでの採択プロジェクト

年度	団体名	対象分野	商談会	
			参加団体数	商談件数
20	一般社団法人九州ニュービジネス協議会	製造業・サービス業ベンチャー	14社	16件
	一般社団法人九州経済連合会	スタートアップ、IoT企業	14社	27件
	一般社団法人ジャパンコストディックセンター	化粧品	11社	26件
	ブロードバンド推進協議会	デジタルコンテンツ	(18社～開催あり)	(18社～開催あり)
	日本サービス協会	介護用品・サービス	5件	5件
札幌IT産業海外展開推進実行委員会	ITベンチャー	17社	24件	
21	一般社団法人九州ニュービジネス協議会	製造業一般	(18社～開催あり)	(18社～開催あり)
	NPO法人高尾道・アナログ半導体ビジネス研究会	半導体関連	(18社～開催あり)	(18社～開催あり)
	福岡地域戦略推進協議会	スタートアップ支援	(18社～開催あり)	(18社～開催あり)
	一般社団法人東京和協会	サービス業等	57社	88件
	しが水環境ビジネス推進フォーラム	水環境ビジネス	8件	26件
	一般社団法人九州経済連合会	環境エネルギー	(18社～開催あり)	(18社～開催あり)
22	関西地域産業活性化センター・沖縄県工業連合会	沖縄のオンライン企業	27社	44件
	九州経済国際化推進機構	食品加工機械、省エネ機器等	31社	77件
	NPO法人高尾道・アナログ半導体ビジネス研究会	アナログ新技術	16社	21件
	福岡県	デジタルコンテンツ	17社	35件
	大原商工会議所	水環境ビジネス	15社	30件
	福岡県中小企業海外展開支援協議会	デジタルコンテンツ	16社	42件
23	高知県工業振興課	観光	23社	46件
	富都産業活性化協会(TAMA協会)	医療健康福祉	16社	27件
	国際環境技術情報センター(ACEFF)	エコプロダクト	26社	65件
	大田区産業振興協会	製造ライン自動化、射出成形技術	12社	30件
	福岡県中小企業海外展開支援協議会	デジタルコンテンツ	15社	41件
	富都産業活性化協会(TAMA協会)	健康福祉	15社	19件
24	大原商工会議所	エコプロダクト	29社	51件
	やまぐち産業振興財団	エコプロダクト	31社	48件
	一般社団法人九州経済連合会	環境、バイオ、電子等	32社	81件
	東北インベションキャピタル	ベンチャー	26社	26件
	徳島県情報産業協会	情報サービス	21社	21件
25	日本金型工業会	金型工具	19社	63件
	国際環境技術情報センター(ACEFF)	リサイクル	36社	106件
	一般社団法人九州経済連合会	環境、バイオ、電子等	16社	65件

本件事業に関する問合せ先
 公益財団法人日本台湾交流協会 貿易経済部
 03-5573-2600 (代)

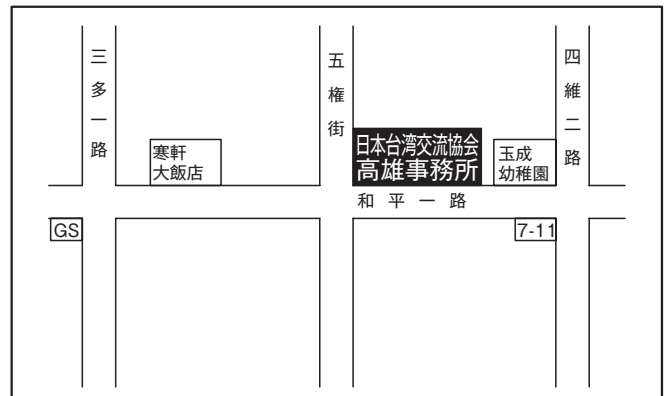
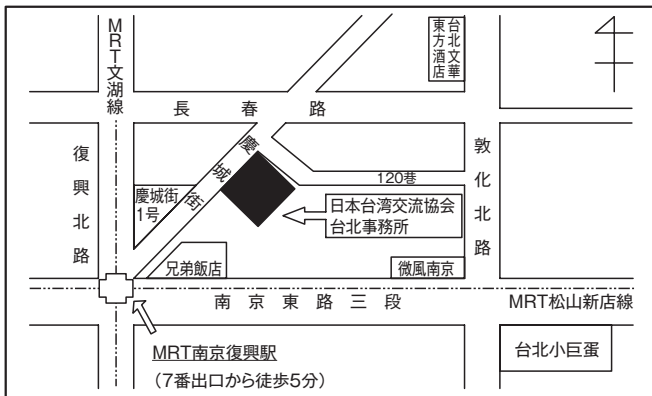
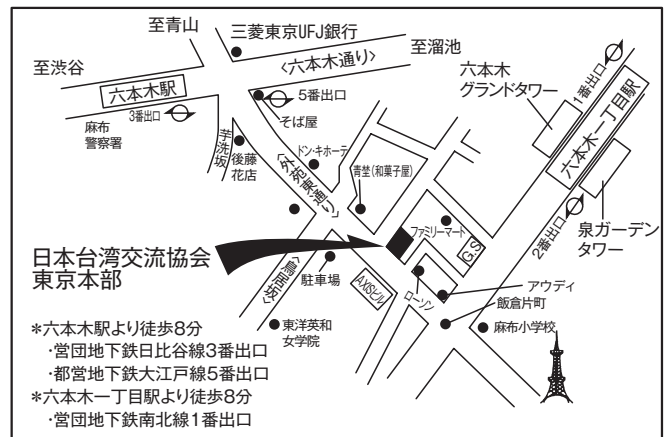
日本台湾交流協会事業月間報告

主な日本台湾交流協会事業（12月実施分）

12月	場所	内容
1日	台北市（語言訓練測驗中心等）	2019年第2回日本語能力試験（共催）
3日	台北市（台北事務所文化ホール）	華道講座（主催）
5日	東京	理事会
6日	東京	修士・博士論文執筆のための訪日経費助成プログラム来日オリエンテーション
7日	高雄市	2019年度第2回日本語教育研修会高雄会場（主催）
8日	台北市（PCBC 彝亞會議中心）	第2回日本語教育研修会（主催）
11日	台中市	領事出張サービス
14日	台北市（東呉大学）	台湾日本語学会 2019年台湾日本語・日本文学研究国際シンポジウム「日本語・日本文学研究の人文知・社会知」（名義）
14日	台北市（台北事務所文化ホール）	第4回中等教師研修会（華道）（主催）
14-15日	高雄市、台北市	第29回 JAL 日本語スピーチコンテスト（名義）
15日	高雄市	第8回日本台湾交流協会元奨学生懇談会（主催）
16日	加賀市（石川県）	日台パートナーシップ強化」セミナー（共催）
17日	金沢市（石川県）	日台パートナーシップ強化」セミナー（共催）
18日	台北市	第8回日台出入境管理会合（共催）
18-28日	高雄市（中山大学）	日本研究支援事業客員教授派遣
19日	台南市	領事出張サービス
21日	台北市（東呉大学）	第5回中等教師研修会（百人一首かるた）（主催）

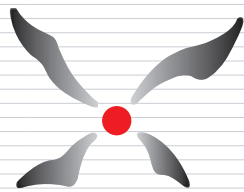
令和2年1月27日 発行
 編集・発行人 舟町仁志
 発行所 郵便番号 106-0032
 東京都港区六本木3丁目16番33号
 青葉六本木ビル7階
 公益財団法人 日本台湾交流協会 総務部
 電話 (03) 5573-2600
 F A X (03) 5573-2601
 U R L <http://www.koryu.or.jp>
 (三事務所共通)

表紙デザイン：株式会社 丸井工文社
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓
 Tong Tai Plaza., 28 Ching Cheng st., Taipei
 電話 (886) 2-2713-8000
 F A X (886) 2-2713-8787

高雄事務所 高雄市苓雅區和平一路87號
 南和和平大樓9樓・10樓
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan
 電話 (886) 7-771-4008 (代)
 F A X (886) 2-771-2734



公益財団法人

日本台湾交流協会

Japan-Taiwan Exchange Association

